

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟 (第4回)

質問者 質問

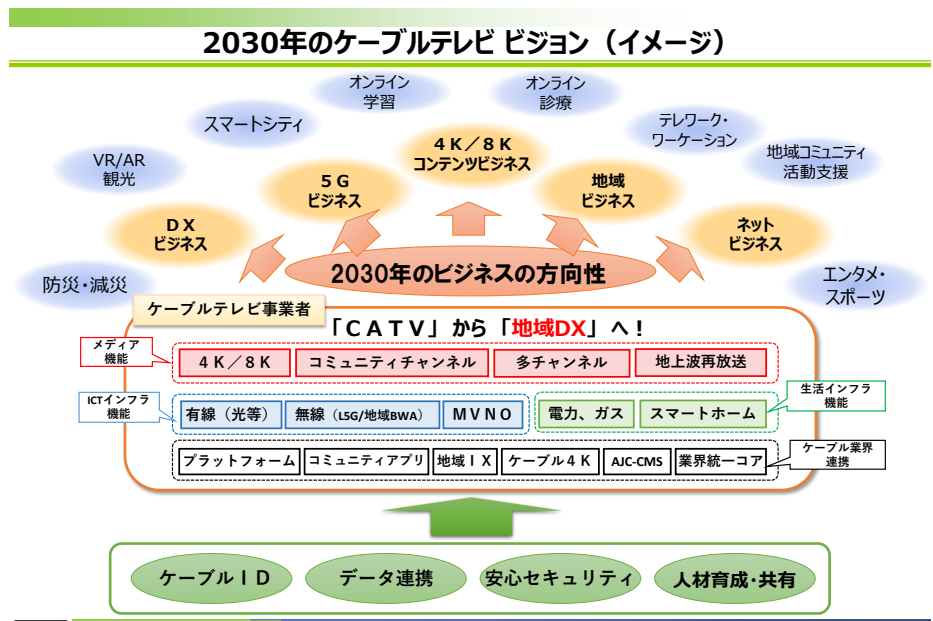
回答

林座長

1. プレゼンテーションの中で、ケーブルテレビは、ローカル5G等を用いて、「地域DX」の主要な担い手になる旨の発言があったかと存じますが、それに関連してお聞きしたいと存じます。実際、ケーブルテレビの約50社がローカル5Gの無線局の申請を検討していると聞いています。ケーブルテレビにとって「地域DX」はどうか(ビジネス)チャンスなのか、JCTAが構想する事業戦略を敷衍してお聞かせいただけましたら幸いです。

ケーブルテレビ事業者は、感染症の拡大による直接的な影響をそれほど受けてはませんが、中長期的には、少子高齢化による世帯の減少、NHKプラスなどのIPを使った放送の更なる普及などを踏まえると、放送、インターネットといった従来のビジネスだけでは生き残りが難しく、事業領域を拡大することが不可欠だと考えています。

このため、現在、日本ケーブルテレビ連盟では、ポストコロナ時代、デジタル時代に対応した業界戦略として、「2030ケーブルテレビビジョン」策定に向けた検討を進めております。ビジョンでは、感染症拡大による新たな日常への対応に加え、本年秋頃のデジタル庁(仮称)創設による社会全体のデジタル化の進展などの動きも踏まえ、地域におけるデジタル化の担い手となる「地域DX」を新たなビジネス領域の柱として考えています。



JCTA Japan Cable and Telecommunications Association Confidential and Proprietary 27

2030年のビジネスの方向性としては、行政のデジタル化、スマートシティへの貢献、映像配信需要、地域IoTサービス、遠隔診療、遠隔教育などの担い手として地域に貢献していきたいと考えています。

これらのサービスの担い手となるためには、ICTソリューションを提供するデジタル人材の育成、確保が我々の課題と考えています。

なお、ローカル5Gや地域BWAなどの無線事業は、「地域DX」に不可欠な基盤と考えており、積極的な利活用を進めたいと考えています。

2. また、地域DXの進展にとっては、ローカル5Gだけでなく、地域BWAも重要と存じます。地域BWAエリア（帯域幅）と重ねて広域化・安定化する必要性についてお聞きできればと存じます。

CATVが利用可能な無線システムは、免許不要の無線システムを除くと、地域BWA（2.5GHz）とローカル5G（Sub6、ミリ波）があります。5Gは、超高速、多数接続、超低遅延を実現する次世代の無線システムですが、その能力を発揮するためには、低い周波数から高い周波数まで、提供するサービスに応じた周波数が必要となります。実際、全国キャリアの方々は、1GHz以下のプラチナバンドからSub6、ミリ波までの幅広い周波数を有しており、これらを組み合わせることで、超高速、多数接続、超低遅延に対応したサービスを提供することが可能となります（一般的に、低い周波数は、回り込みしやすく幅広いエリアをカバーできる特徴があります）。

地域BWAの2.5GHz帯は、我々ケーブルテレビが利用可能な最も低い周波数帯であり、ライトユーザ向けのサービスや多数接続、超低遅延サービスの提供に不可欠となる、我々にとってのプラチナバンドと考えています。

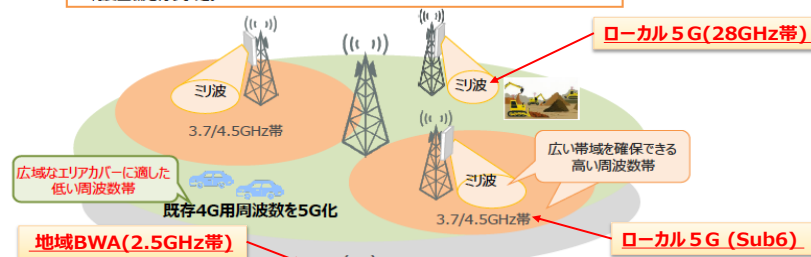
CATVとしては、地域BWAの2.5GHz帯、ローカル5GのSub6、ミリ波を組み合わせたネットワークを構築し、地域における様々なニーズにきめ細かく対応していきたいと考えています。

下図は、ケーブルテレビによる無線利活用の考え方をまとめたものです。5Gは、様々な周波数を組み合わせたヘテロジニアス・ネットワークとなることがコンセプトとなっています。

ケーブルテレビによる無線利活用（地域BWA、ローカル5G）の考え方

- 5Gにおける「超高速」、「超低遅延」、「多数接続」などの性能は、それぞれの特長に応じた複数の周波数を組み合わせたシステムで総合的に実現するもの。地域における様々な課題を解決する際も、個々のユースケースに応じて、異なる周波数※を組み合わせた無線システムが必要。
※帯域が確保できるSub6やミリ波は超高速サービス、地域BWAの帯域は多数接続や面的なエリアカバーなど
- 「地域DXの担い手」として、社会全体のデジタル化に向けた様々なサービスを提供するため、ローカル5Gだけでなく、地域BWAの2.5GHz帯の活用を推進してまいります。

- 2019年4月に携帯電話事業者4者に5G用周波数（3.7/4.5GHz帯、28GHz帯）を割当て。
- 今後、既存の4G用周波数の5G化を可能とし、5Gの広域なカバーを実現することで、地域の産業などの5Gの利活用を加速することが期待されており、2020年3月には新世代モバイル通信システム委員会報告書がとりまとめられ、4G用周波数の5G化に関する技術的条件が策定された。
- 技術的条件が策定されたことを受け、4G及びBWAで使用されている周波数帯において、5Gへの高度化（BWAにおいては5Gと互換性のあるBWA方式への高度化）を行うべく、制度整備を行う予定。



総務省 新世代モバイル通信システム委員会 資料より抜粋



Japan Cable and Telecommunications Association Confidential and Proprietary

林座長